

令和5年度 第2回 舟橋村立舟橋小中学校 学校運営協議会 会議録（概要）

日 時 令和6年3月5日（火）15：30～

場 所 舟橋会館 2階研修室

出席者 良峯喜久男（舟橋中学校同窓会長）、前原英石（体育協会会長）、深川敦夫（自治会連合会長）、山岸克彦（立山舟橋商工会副会長）、山ノ麻子（舟橋小学校育成会会計）、堀内英里子（舟橋中学校育成会会長）、松越正純（舟橋小学校長）、綿引正則（社会福祉協議会長）、京角由美（主任児童委員）、高野良子（舟橋図書館長）、松下雅人（舟橋会館長）、土田聡（統括コーディネーター）、沙魚川恵子（小学校担当マネージャー）、野村智浩（中学校担当マネージャー兼社会教育委員代表）、土田聡（教育長）、海見英里（舟橋小学校教頭）、平澤千織（学校教育係主任）、金山智彦（社会教育係長）、
欠席者 内生蔵保人（舟橋中学校長）、小林仁美（舟橋中学校教頭）

（1）開会挨拶

＜土田教育長＞

本日、中学校の校長教頭はコロナにより欠席のため、小学校の報告を中心にさせていただきます。次年度に繋がるような話ができればと思っている。

（2）会長挨拶

＜良峯会長＞

この協議会を立ち上げていただいた早川教育長のあまりにも早い逝去に謹んで哀悼の意を表すとともにご冥福をお祈り申し上げます。

本日は令和5年度の報告を学校よりしていただき、委員の皆様には建設的なご意見、連携・協働を念頭にご意見を出していただければと思います。

（3）報告及び協議事項

①小中一貫教育について

※資料 I 『舟橋村「9年間の学びの世界」における実践等』 参照

＜松越校長＞〈補足説明〉

「9年間の学びの世界」については一村一校の利点を生かして進めている。

【地域連携】

- ・「ふるさとの川でつながる環境教育」の一環として合同学習を行っている。
- ・夏には、小中学校の教員が一堂に集まり、「知」「徳」「体」の部会ごとにそれぞれの子供たちの育ちを話し合う機会を設けた。

【人格形成】

- ・中学1年生の小学校での読み聞かせや小学6年生の部活動体験といった交流活動を進めていった。

【健全育成】

- ・望ましい生活習慣作りのため、生活リズムチェックシートを使って、生活の見直しをさ

らに進めている。

【協働学習】

- ・様々な小中合同学習を行うことができた。

○今後について

・小中合同教員研修を行ったが、今後はもっと子供を中心に置きながら授業を進めていく必要がある。

- ・中学校で力を入れている「立腰」や「TODO リスト」を小学生にも下していきたい。

②各学校の運営方針について

※資料令和5年度 舟橋小学校の学校評価 参照

＜松越校長＞＜補足説明＞

- ・今年度は主体性と思いやる心の育成に重点を置いて進めてきた。

【ふ】・・・ふるさとを愛し、地域に学ぶ子供

○総合的な学習の授業（3年生以上）にて地域学習を展開。

- ・3年生

田植え稲刈り体験に加え、1人1バケツで稲を育て、採れたお米を給食で食べる体験をした。子供達は大変喜んでいました。

- ・4年生

生き物調査を行った。調査以外にも、調査で見つかった珍しい生き物を学校で飼育し、学校水族館を設置。魚津水族館の学芸員からの指導も受け、新たな気付きに繋がっていた。リバーサイド公園にラベンダーを植え、地域に根差した活動も行った。

- ・5年生

人との関わりとして、就学時健診や半日入学体験でのお世話やこども園を訪問する等、こども園の年長児との交流を図ってきた。

6年生になった時に、1年生として入学してくる子供達ということで意欲的に関わっていた。

- ・6年生

今年度もサケやマスの稚魚を育てて放流に向けて進めてきた。

今年度は4年生が中心に生き物とは関わってきていた。今までの取組により、とやま環境賞を受賞。新聞やTVにも例年取組を取り上げられている。

- ・1、2年生は、立少での自然体験を行っている。自然の中に身を置くことだけでなく、2年生は自分よりも下学年の1年生の世話をし、声をかけるという姿が見られた。

- ・4～6年生は立少での宿泊学習を行っている。学年が上がるにつれて活動は拡張していている。6年生においては地域の方々や保護者の協力を得て、立山登山も行った。声を掛け合う、協調性を育てる良い機会になった。

今後もこのような活動を続けていきたい。そのためにも学校の活動を村の方々を知っていただいて、他分野において協力してくだる方に協力していただきたい。

【な】・・・なかよく助け合い、思いやりあふれる子供

- ・挨拶については、アクションプランを基に取り組んだ。

「あいさつ隊」の活動など、いろいろな取組を行ったが、目標は達成されていない。

地域の方々からも、“挨拶しても返ってこない”“挨拶に元気がない”という声もあり、今後の課題である。子供達に理由を聞くと、恥ずかしいとのこと。学年が上がるにつれてといった様子も見られる。挨拶週間には頑張るが、終わると元に戻るようなところもあり、いつでも誰とでもというところを目指していきたい。

- ・異年齢交流については、ハーティ班活動が中心となる。

今まで学年で行っていた活動もハーティ班に組み替えて行い、全校集会もハーティ班で並んだり、ハーティ給食を行ったりした。

この活動の良いところは、上学年がリーダーシップをとる、下学年は憧れを持つともに協力する意識を持つこと。

【は】・・・働くことをいとわず、進んで行動する子供

- ・昨年度までは、YouTube やゲームの視聴が多いということから、メディアについて取り上げていた。今年度は、食欲や睡眠、ストレスについて取り上げた。養護教諭だけでなく、食の面については栄養教諭からもアプローチしていた。今年度は富山県の保健推進校に選ばれており、力を入れていた。
- ・生活チェックシートを使って、視覚で分かるように自分の生活を見直す機会を設けた。小学5年生と中学2年生が合同学習を展開している。
- ・運動委員会では、みんなで体を動かす機会を作り、楽しみながら体を動かしていた。
- ・今後も長期的に行っていきたい。

【し】・・・しっかりと見聞きし、よく考える子供

- ・各学年に合わせた目標を設定し取り組んでいる。学級や学年、指導によって結果にはばらつきがある。
- ・ハンドサインを使うことで自分の意思表示がしやすい、話し合いがしやすいようにした。
- ・「ウメライス」を意識することは有効で、まずは聞くというところを大切にしてい進めた。

<良峯会長>

ありがとうございました。

<良峯会長>

地域学校協働活動について、ふなはしテトラ協働本部統括コーディネーター代理として土田教育長に説明をお願いいたします。

③地域学校協働活動について

<土田委員> <補足説明>

※資料地域学校協働活動について 資料参照

令和5年度のふなはしテトラの取組について 1～8

1 ふなはしテトラ学習会

- ・今年度は小学3年生から中学3年生が来ており、登録とすれば30人弱。月曜と木曜日に開催し、毎回100~15名の子ども達が参加している。
- ・指導者については、松下館長に見守っていただいている。また、村内の大学生が一緒に指導してくれている。大学生は就職のタイミングで抜けてしまうので、課題としては今後、指導者をいかに見つけ出していくかというところ。
- ・来年度も学習会は開催するので、参加児童生徒の募集は行う予定。

2 社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業

- ・今年度は受け入れ企業が14事業所あったが、急遽受け入れができなかったところもあり、13事業所での受け入れとなったが、他にもVードラックや常願寺川公園スポーツクラブの受け入れの承諾も得ているので、村内でも受け入れをしてくださる企業が増えている。次年度もテトラで募集、相談をしていく。

3 川の美化活動の実施

- ・9月に第2回目を行った。1回目もかなりの量のゴミが出たが今回も量が多かった。授業で鮭の稚魚の放流をした時にも川にゴミがまた溜まっていた。今後も例年テトラで参加者を募って行っていきたい。
- ・中学1年生の子たちが看板づくりをしている。舟橋会館北側の川沿いに設置する。看板業者の直しを見て、さらに生徒が修正したいと直しているところであり、少しまた看板設置が遅くなる見込み。

4 ながら見守り隊の実施

- ・最近帽子をかぶっている方が少ないので、協力者を増やすためにも次年度は見守り隊の新聞の発行をしたいと考えている。

5 各種団体の依頼

- ・様々な依頼が入っているが、主に社会福祉協議会からで募金活動やボランティアの募集を小中学校に投げかけている。
- ・本来は、コミュニティスクールや地域協働活動の仕組みなどを保護者に説明したいと思っているが、なかなか保護者総会が開催されないこともあり周知できていない。4月に入ったらチラシを作成し配布したいと思っている。

7 花壇ボランティアの実施

- ・3名の方応募してくださって、フラワーロードの花壇の手入れをしてくださっていた。

8 がっこうおたすけ隊の募集

- ・小学校の休み時間の様子を見守りや給食の配膳のお手伝い、それから掃除の手伝いのできる方はいませんかという募集を3月広報に載せた。現在2人やりたいとおっしゃっている。

- ・学校の中に地域の方入れる場所を設けまして、お茶セットなどを準備して談笑ができる場とする、地域のコミュニティができるというところも狙い。これが広がっていけばと思う。家にいて時間のある方であれば年齢問わず参加できる。お助け隊ベストを用意し、着用してもらうことで学校の中を普通に歩いてもらえるようにした。子供達とどんどん関わってほしい。

・統括コーディネーターは次年度も引き受けていただけるが、就労しながらであるため、教育長と一緒にやっていく予定。

<良峯会長>

ありがとうございました。委員の方からご質問はありませんか。

<山岸委員>

校長は、子供達があまり挨拶できていないという判断はどういった視点で判断されたのか。

<松越校長>

朝、学校での挨拶は自分からしないと返ってこない子が多いように感じている。

<山岸委員>

今、子供でも大人でも散歩をしていても挨拶しない人が増えていることに対し、どうなのかなと思っている。

昔の子ども達は自分がトラクターに乗っていても手を振ってまで挨拶してくれた。今もしてくれる子もいるが、あまりしてくれないように感じている。

<土田教育長>

不審者が出始めてから、知らない人に挨拶をしないようになっていったという経緯もある。

ただ、子供たちは自分から言えなくても大人から挨拶をされると返したりするので、手としては大人から挨拶をすることも一つ。

<山岸委員>

あとは、親が挨拶するようにして、家庭で挨拶するよう声をかけることも必要だと思う。

テトラの見守り隊については、一つのスローガンを掲げてはどうか。みなさんから募集するのも手かと思う。

14歳の挑戦はこれで20年くらいたつと思うが、子供達に将来の職業を考えるにおいても大変有意義な体験になっていると思っている。教育長会議で世界にも発信されていた。村でも続けてほしいと思う。

<土田教育長>

現在、14歳挑戦の時期が重なりやすく、受け入れ事業所の取り合いになっているため、中学

校間で調整もしている。舟橋村立図書館もいつも多くの村内外の生徒を受け入れている。

<松下委員>

自分も学校にいた時には、挨拶に関しては厳しいご意見をいただくことがあった。

現在、舟橋会館という学校でない場所において、放課後に子供達が多くの方々と関わっている市町村はないと思っている。このような場所が村はたくさんあるので、そういった場所で挨拶の風潮を高めていけばよいのではないかと、挨拶は学校ばかりでするものではないのではないかとともに思っている。

現状、会館にいる時に挨拶をしても返してもらえない。小さいお子さんを連れた保護者でも挨拶されないのが、子供達が挨拶しないというところを責めないで、大人が挨拶し合うことで挨拶の良さを広めていけたらと思う。

<良峯会長>

自分はシルバーで仕事をしているが、中学生は大きな声で挨拶をしてくれる。小学生の方が照れている感じがある。

今ご意見にあったようにまず大人から挨拶をすること、大人同士が挨拶をすることで、子供達がそれを見て良さを感じて広まっていくことが良いと思う。

<前原副会長>

道を歩いていて、子供達から挨拶されることがある。こちらとしてしてやられたなと思うことがあり、きっと舟橋村の子なんだろうなと思っている。

<土田教育長>

「おはよう」や「こんにちは」といった挨拶も大切だが、「気をつけて帰れよ」等、声をかけるということも大切なように思っている。

見守り隊の旗も各地区に立てていただいている。スローガンも考えてみようと思う。どんどん活動を広めていきたい。

<良峯委員>

配り物に行くとき等、少し外出する時にも帽子をかぶるようには意識している。

<高野委員>

図書館開催の大人のためのお話会を開催したが、そこに集まった方との話題に上がったのが、大人がSNS等、人が直接話さなくても繋がれるということがあって、ほとんどの方が人とすれ違っても挨拶や会話はなく黙って歩いている。

子供達に言う前に、村民全体で挨拶をしあいましょうという取り組みがあったらいいなと思った。

<堀内育成会長>

朝、家庭で挨拶はするけれども、そもそも朝元気がない。もしかしたら睡眠不足なのか、夜ゲームをしていたのか、挨拶だけの問題じゃなくて他の生活習慣との関わりで、朝結果的におはようと挨拶する元気すらないのではないかと感じる。歩いている姿を見ても朝から疲れているのかな、大丈夫？と思うこともあるので、生活そのものの課題かなとも思える。

<土田教育長>

子供達って、朝は元気がなくて、帰りはとっても元気で挨拶も倍ぐらいになる。大人もそうだと思います。

<良峯会長>

皆様には、進行にご協力いただきありがとうございました。

それでは、これで協議を終了いたします。

(6) 閉会挨拶

<前原副会長>

資料を見返して思うことがあれば、教育長や事務局長に話を聞いてもいいですし、直接学校に行かれてもいいと思います。小学校長には丁寧な説明ありがとうございました。3月に入りましたが、村では二十歳の集い、小学校では卒業式や市入学式、中学校では受験、卒業式や入学式と様々な事業が待ち構えております。学校の先生方には体調に合わせて大きな行事に取り組んでいただきたいと思います。

地域とともにある学校づくりを皆さんと実現していくためにもますますのご理解とご協力いただきますようお願いいたします。